

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成21年2月26日(2009.2.26)

【公開番号】特開2007-187616(P2007-187616A)

【公開日】平成19年7月26日(2007.7.26)

【年通号数】公開・登録公報2007-028

【出願番号】特願2006-7387(P2006-7387)

【国際特許分類】

G 0 1 N 37/00 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 37/00

G 0 1 N 37/00 1 0 1

【手続補正書】

【提出日】平成21年1月13日(2009.1.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

液体流入口と液体流出口を有すると共に、液体流入口から導入した試料溶液中の測定対象成分と選択的に結合する選択結合性物質が表面に固定化されている担体を収納する反応室を内部に備える分析チップであって、流路を通じて反応室の下流側に連結されている反応生成物を含む溶液を貯溜する貯液槽を有することを特徴とする分析チップ。

【請求項 2】

貯液槽が、反応室と液体流出口とを結ぶ流路から分岐して連結していることを特徴とする請求項 1 に記載の分析チップ。

【請求項 3】

反応室と液体流出口および反応室と貯液槽を連結する各流路に、流路を開閉するバルブを有することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の分析チップ。

【請求項 4】

請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の分析チップを用いて、測定対象成分と選択的に結合する選択結合性物質が表面に固定化されている担体上で、試料溶液中の測定対象成分と選択結合性物質とを結合させ、反応生成物を含む溶液を貯液槽に貯溜し、該貯液槽で該測定対象成分を免疫学的に測定することを特徴とする分析方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

上記課題を解決するために、本発明は次の構成を有する。

(1) 液体流入口と液体流出口を有すると共に、液体流入口から導入した試料溶液中の測定対象成分と選択的に結合する選択結合性物質が表面に固定化されている担体を収納する反応室を内部に備える分析チップであって、流路を通じて反応室の下流側に連結されている反応生成物を含む溶液を貯溜する貯液槽を有することを特徴とする分析チップ。

(2) 貯液槽が、反応室と液体流出口とを結ぶ流路から分岐して連結していることを特徴

とする（１）に記載の分析チップ。

（３）反応室と液体流出口および反応室と貯液槽を連結する各流路に流路を開閉するバルブを有することを特徴とする（１）または（２）に記載の分析チップ。

（４）（１）～（３）のいずれか１項に記載の分析チップを用いて、測定対象成分と選択的に結合する選択結合性物質が表面に固定化されている担体上で、試料溶液中の測定対象成分と選択結合性物質とを結合させ、反応生成物を含む溶液を貯液槽に貯溜し、該貯液槽で該測定対象成分を免疫学的に測定することを特徴とする分析方法。